



Chu-Shi ACTIVITY REPORT

中四がんプロ活動レポート

Vol.57

Oct. 2020



Mid-West Japan
Cancer Professional Education Consortium
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム



愛媛大学 Ehime University

臨床腫瘍学教育課程がん専門医養成コース
●医学部学務課大学院チーム
TEL:089-960-5868

岡山大学 Okayama University

がん専門医養成コース
●医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ大学院担当
TEL:086-235-7986
がん専門職(がん専門・指導薬剤師、
緩和薬物療法認定薬剤師)養成コース
●医歯薬学総合研究科等薬学系事務室教務学生担当
TEL:086-251-7923
高度実践看護学(がん看護専門看護師)コース・医学物理コース
●医歯薬学総合研究科学務課教務グループ保健学研究科担当
TEL:086-235-7984

香川大学 Kagawa University

がんプロフェッショナル養成コース
●医学部学務課大学院入学試験係
TEL:087-891-2075

川崎医科大学 Kawasaki Medical School

がん専門医療人養成コース
●事務部教務課
TEL:086-464-1012

高知県立大学 University of Kochi

APNコース
●教務支援部教育研究戦略課
TEL:086-847-8815

高知大学 Kochi University

がん専門医養成コース
がん専門薬剤師養成コース
●医学部・病院事務部学生課大学院係
TEL:088-880-2799

徳島大学 Tokushima University

がん薬物療法専門医養成コース・臨床腫瘍放射線医学コース
臨床腫瘍外科コース
臨床腫瘍栄養学コース(博士前期課程・博士後期課程)
●総務部学務課第一教務係
TEL:088-633-9649
臨床腫瘍薬剤師養成コース
●総務部学務課第二教務係
TEL:088-633-7247
高度実践がん看護学コース・医学物理学コース
●総務部学務課第二教務係
TEL:088-633-9009

徳島文理大学 Tokushima Bunri University

臨床腫瘍薬剤師養成コース
●香川キャンパス教育・研究支援グループ
(がんプロ担当)
TEL:087-899-7100

広島大学 Hiroshima University

がん専門医養成コース
がん専門薬剤師養成コース
がん看護高度実践看護師養成コース
医学物理士養成コース
●露地区運営支援部学生支援グループ
TEL:082-257-1538

松山大学 Matsuyama University

がん専門薬剤師養成コース
●薬学部事務室
TEL:089-926-7193

山口大学 Yamaguchi University

外科系腫瘍専門医コース
内科系腫瘍専門医コース
放射線腫瘍専門医コース
がん看護専門看護師養成コース
●医学部学務課大学院教務係がんプロ事務室
TEL:0836-22-2055

<http://www.chushiganpro.ccsv.okayama-u.ac.jp/>

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム Vol.57

- 編集兼発行者
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局
〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1
TEL:086-235-7812/FAX:086-235-7045
ganpro@adm.okayama-u.ac.jp
- 印刷所
有限会社 ファーストプラン



中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム

中国・四国地域に位置する11大学がコンソーシアムを形成し、各大学院に多職種のがん専門医療人養成のためのコースワークを整備し、これに地域の35のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域にムラなくがん専門医療人を送り出すことを目的としています。



ごあいさつ

平成29年6月に、中国・四国地域の11大学が連携する「全人的医療を行う高度がん専門医療人養成」プロジェクトが文部科学省の「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」に採択されました。

本事業は、がん医療を取り巻く状況変化に伴い生まれる多様な新ニーズにも対応するがん専門医療人の人材育成を目的としております。がん患者数の増加、治療の進歩に伴い高齢者医療、ゲノム医療、希少がん、小児/AYA世代がんへの対応は新たな重要課題となっており、中国・四国地方においても高いレベルでそれらを理解し、適切な医療を提供できる医療人の養成が必要とされています。さらに、がん患者の求める全人的医療を実践するためには、各々が高度な技術と知識を持った上で、チームとして連携し、がん診療を提供する多職種連携教育が重要となります。

本事業では中国・四国の11大学が参画するコンソーシアムを組織し、上記課題に対応できる卓越したがん専門医療人の人材育成にあたります。

当コンソーシアム事務局では、講演会、国内外の施設への研修など、コンソーシアムの活動情報を広く発信することを目的とした季刊誌の発行を行っています。

本誌をきっかけに、大学院入学や各種セミナーへの参加等をご検討いただければ幸いです。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム
事務局

研修報告

研修期間:2019年11月11日～11月15日

研修先:がん研究会明病院

川崎医科大学附属病院 管理栄養士 井上 幸香

1日目(11月11日)

- 9:30～10:30 栄養部内・厨房見学
- 10:30～12:00 病院見学
- 13:00～13:30 管理栄養士ミーティング参加
院内勉強会・学会発表内容の確認
- 13:30～14:10 栄養部全体ミーティング参加
勉強会
「大量調理マニュアル衛生管理についての基本について」
- 14:10～16:10 緩和病棟患者への管理栄養士の関わり方
緩和病棟の特徴
栄養管理の方法
電子カルテの見方
ベッドサイドでの栄養指導見学
- 16:10～17:10 まとめ



厨房内:ミキサー食作成場

栄養部内を見学を一通りさせていただいた。厨房では仕込みから配膳までの流れや食品庫などを説明していただきながら見学を行った。厨房内に入る際、管理栄養士も必ず白衣を着替え、帽子2個、マスクを必ず着用してから厨房に入っており、異物混入をしっかりと防げる環境が整っていると感じた。病院見学では、どの病棟も窓が大きく、テイルームが広く明るく開放的である事が印象的であった。

午後の栄養部ミーティングでは、はじめに管理栄養士と熊谷医師による、栄養部内での連絡事項と管理栄養士が担当する病院内での勉強会・学会発表内容のスライドを実際にスクリーンに映し、当事者による発表が行われていた。全員の前で発表を行い、指摘事項や分かりにくい箇所があれば訂正を行っていた。発表の練習にもつながり、他者も訂正すべきポイントやスライド作成の上で気を付けなければならない事項に対し共通認識を持っていると感じた。

緩和病棟患者の管理栄養士の関わり方について指導していただいた。患者さんの嗜好などの希望に合わせてるように、食種・主食・副食・付加食などの種類を多く設けられており、入院患者さんのニーズに合わせた食事を準備されていると感じた。

2日目(11月12日)

- 8:45～ 9:00 管理栄養士朝礼参加
- 9:00～ 9:20 厨房での朝礼参加
- 9:20～12:00 婦人科での管理栄養士の関わり方
婦人科入院の患者の特徴
患者との関わり方
栄養指導見学
悪液質での栄養減量のタイミング
- 13:00～16:00 化学療法科での管理栄養士の関わり方
化学療法科患者の特徴
食思不振患者に対する栄養ルート検討
栄養指導見学
- 16:00～17:10 まとめ



緩和病棟入口

婦人科では、乳癌術後の患者さんの栄養管理を主にされており、再発防止のための栄養管理が行われていた。病棟業務中に緩和ケアチームのラウンドが行われており、チーム介入している婦人科患者がいれば管理栄養士がラ

ウンドに加わり食事・輸液の相談がなされていた。普段、関わることの少ない疾患患者の栄養管理であったため、勉強になった。

化学療法科では、胃・食道・腸癌に対して化学療法を施行している患者さんがほとんどであり、食事摂取状況低下のリスクが高く必要栄養量確保できないことから低栄養状態に陥るリスクがあるため、栄養状態維持・改善目的での栄養管理が行われていた。入院直後、食事摂取状況はまだ落ちていない時から、食事摂取状況が減少するようであれば、どこまで食事対応ができるか、治療のリスクなどの説明も行われており、患者の不安軽減につながることも、早期に栄養介入がなされていると感じた。

3日目(11月13日)

- 9:15～12:20 胃癌・食道癌術後患者への栄養指導見学
- 13:00～14:00 乳腺科 リンパ浮腫患者への減量栄養指導見学
- 14:00～14:20 褥瘡カンファレンス見学
- 14:20～14:30 NSTカンファレンス見学
- 14:30～15:20 大腸疾患栄養指導見学
- 15:20～16:10 褥瘡、NST運営方法の説明
- 16:10～17:00 まとめ



集団栄養指導場面

食道癌・胃癌術後患者への栄養指導見学では、主に術後の外来患者への栄養指導であった。術後、体重の減少だけでなく、INBODYにて体組成の測定もされており、身体計測と採血結果、食事摂取状況を確認しながらの管理が行われていた。摂食時のつかえ感を訴える患者が多く、個々の訴えに合わせて食事・食べ方・水分摂取量の提案がなされていると感じた。

褥瘡、NSTカンファレンスは、消化器外科医師、胃外科医師、歯科医師、消化器内科医師、専任看護師、専任管理栄養士、専任薬剤師、病棟看護師で行われており、コメディカルは全患者で意見を発言しており、多職種連携がしっかりと行われていると感じた。

大腸癌術後の集団栄養指導では、バスで栄養指導予約が入ってきているとの事だったので、栄養指導の必要性が病院全体で認識されていると感じた。

4日目(11月14日)

- 9:15～12:00 頭頸疾患患者への管理栄養士の関わり方
頭頸科患者の疾患割合
栄養管理の方法
栄養指導・栄養ケア見学
- 13:00～14:00 呼吸器疾患患者への管理栄養士の関わり方
呼吸器疾患患者の特徴と治療
栄養ケア見学
- 14:00～15:30 放射線科患者への管理栄養士の関わり方
栄養指導見学
- 15:30～16:30 給食管理について、全体の栄養管理についての説明
- 16:30～17:10 まとめ



緩和病棟テラス

頭頸科での管理栄養士の関わりでは、病棟看護師・担当医師と病棟で相談・提案をしっかりと行われており、患者への的確な栄養管理が行われていると感じた。当院と違い、化学放射線の治療開始前に治療による副作用の説明などを行い、胃瘻造設をほぼ施行しているとの事であった。胃瘻造設をしても経口摂取はできるだけ継続し嚥下機能が低下しないような指導も行われていた。栄養剤調整に関しては、本人の消化器症状に合わせて栄養剤の調整を連日施行・確認を行っており、的確な栄養管理をされていると感じた。

5日目(11月15日)

9:15~12:10	肝胆膵疾患患者への管理栄養士の関わり方 患者割合の説明 周術期チームの説明 栄養ケア・栄養指導見学
12:10~12:45	検食
13:15~13:50	緩和ケア病棟の多職種カンファレンス見学
13:50~14:20	緩和ケア病棟のナースミーティング見学
14:20~15:10	胃癌術後外来患者の栄養指導見学
15:10~16:20	論文・学会発表・栄養管理に関する資料の説明
16:20~18:10	まとめ

肝胆膵疾患患者は、がんの術前術後の患者が多く、特に膵癌の術後患者さんに対して、多くの栄養管理をされていた。担当管理栄養士の先生は患者さんの栄養状態だけでなく、状態と今後の治療方針、控えている手術の栄養管理に関するリスクまで細かく把握されていた。論文やエビデンスを踏まえており、的確な栄養管理をされていると感じた。

多職種カンファレンスでは、緩和ケア病棟患者の病態・疼痛管理・安静度・鎮静などに関することを医師・看護師・管理栄養士・(薬剤師)などで話し合われており、チーム医療がしっかりなされていると感じた。

がん研有明病院の栄養部発信の論文や研究内容を教えていただき、普段の業務をこなしている中で治療や栄養管理に関する疑問点を見つけ、研究につなげ、多くの論文や本を出版されていた。研究結果などは最終的に患者に還元され、最良な栄養管理につながっていると感じた。



病院内コンビニの栄養剤売り場



栄養指導媒体

まとめ

何を学んだか

病院での管理栄養士の在り方

今後、何を教育・臨床にフィードバックしたいか

自院の入院患者へきめ細やかな栄養管理

そのための方策 いつまでに、どのような形で

帰院後より病態把握・治療に関する知識の自己学習や医師・看護師・薬剤師から専門的知識の学習を行い、入院患者の食事内容調整や輸液内容の確認・調整、栄養指導など最良な栄養管理を行っていきたい。

今回の研修について

栄養指導内容、細かい食事調整等、有明病院様でされているがん患者への栄養管理・対応について理解できました。管理栄養士の先生方にとっても熱心にされている栄養管理業務を間近で見学させていただき、私自身への良い刺激になりました。

診療科別で管理栄養士の関わり方や栄養指導の見学を多くさせていただき、栄養管理に関することの多くを吸収することができました。どのセッションでも、癌患者に対する栄養指導の見学と、栄養管理の方法を詳しく説明していただきました。

また、研究も多くされており、研究結果を患者の栄養管理に還元され、良質できめ細やかな栄養管理をされている事が印象的で病院管理栄養士の在り方を改めて再認識することができました。

研修期間:2019年12月2日~12月5日

研修先:がん研有明病院

香川大学 医員 羽床 琴音

1日目(12月2日)

7:30~ 7:45	抄読会
7:45~ 8:00	消化器カンファレンス
8:00~ 8:30	Oncologyカンファレンス
8:30~ 9:00	消化器カンファレンス
9:00~10:00	病棟回診
10:00~12:00	外来見学
13:00~18:00	病棟見学、胃癌カンファレンスなど

2日目(12月3日)

8:00~ 8:30	Oncologyカンファレンス
8:30~ 9:00	消化器カンファレンス
9:00~10:00	病棟回診
10:00~12:00	研究施設見学
13:00~18:00	病棟見学、食道カンファレンスなど

3日目(12月4日)

8:30~ 9:00	病棟回診
9:00~17:00	病棟見学

4日目(12月5日)

8:30~ 9:00	病棟回診
9:00~11:00	病棟見学

まとめ

何を学んだか

がん診療専門拠点医療機関におけるがん診療を学んだ。抄読会による最新の知見の共有や、カンファレンスでの意見交換、カルテ上での副作用テンプレートの使用、多職種に渡る緩和ケアの関わりなど、当院との様々な違いを感じることが出来た。特に、それぞれのエキスパートが意見を持っており、カンファレンスなどで積極的に発言している点が印象的であった。

また、研究施設や研究内容・発表内容も見せていただき、若い先生方が研究に取り組み、世界に発信している様子を感じることが出来た。

今後、何を教育・臨床にフィードバックしたいか

今後、このようながん診療専門拠点医療機関にて研修を行い、日本のがん治療を担っていこうと考えた。また、世界に発信できるような研究も積極的にやっていきたいと考えた。

そのための方策

専門医取得後、都市の大規模ながん診療施設で研修を行い、がん診療のエキスパートとして成長し、がん患者さんに対して貢献を行う。また、研究に関しては2020年4月より大学院に進学し、研究について学ぶ。

この研修全体について

全国的にもがん治療で有名な施設で研修ができたことは自分にとって非常に実りある経験でした。地元で働こうと思っていた自分にとって、都会で研鑽を積もうと思えた大きなきっかけでした。有名な先生方と知り合えたのも大きな財産です。



がん研有明病院



緩和ケア病棟中庭

研修期間:2020年2月24日~2月28日
研修先:聖路加国際病院

高知大学 助教 樋口 やよい

研修目的:遺伝診療について勉強するため
研修内容:遺伝診療の臨床現場・カンファレンスなどの見学

1日目(2月24日)

8:00~17:00 遺伝診療部 概要 RRSOのIC

2日目(2月25日)

8:00~17:00 腫瘍内科見学 NIPT外来 AYA世代カンファレンス 大学院授業

3日目(2月26日)

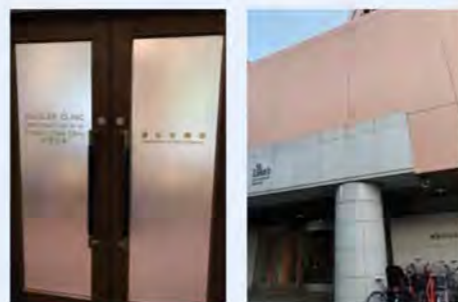
8:00~12:00 腫瘍内科・乳腺外科との合同カンファレンス

4日目(2月27日)

8:00~17:00 NIPT外来 リプロ外来(腫瘍生殖について)

5日目(2月28日)

8:00~17:00 乳房再建外来、NIPT外来、IUFD研究について



まとめ

研修先において学んだこと

遺伝診療について、基礎から臨床まで学ぶことができました。病院内での連携も、多職種カンファレンスなどを見学することで教えていただきました。遺伝情報をどのように共有するか、またそれをどのように今後活かしていくか、多くの診療科の連携が必要であり、サーベイランスまで含めた診療が必要と学びました。

それをどのように教育に活かすか(いつまでに、どのような形で、どこまで)

今後NIPTや遺伝性腫瘍に対して、学生教育・研修医教育が必要になってくるため、そのために今回学んだ知識を活かします。1年間でスライドを作成、産婦人科をローテーションする学生・研修医へ教育できるように準備を進めます。

それをどのように臨床に活かすか(いつまでに、どのような形で、どこまで)

臨床遺伝専門医取得に向けて、研修をはじめており、その勉強に活かします。研修先では遺伝情報をもとに、遺伝サマリを作成されており、診療科をこえて情報を共有できるので、今後必要に応じて参考にさせていただきたいと思います。遺伝診療部カンファレンスに参加させていただいているので、その場でも情報共有ができればと思います。遺伝診療は一診療科だけではできず、連携体制をどのように作っていくかが大切だと実感しました。今後、大学での遺伝診療において、他部署・多職種連携を頑張っていきたいと思いました。

それを実行するための方策

臨床遺伝診療医取得に向けて、勉強をすすめるとともに、症例経験を積んでいきたいと思っています。研修医教育に向けて、スライドを作成します。

この研修全体についてのコメント

遺伝診療に対して、今までは臨床的に必要なことから勉強してきましたが、今回は大学院の授業にも参加させていただき、もう一度遺伝について基礎から考える機会を与えていただきました。その上で、実際の臨床現場、カウンセリング、多職種でのカンファレンスに参加させていただき、とても勉強になりました。遺伝診療部の中でも、患者さん向けの資料を作成されており、それをもとに説明することで、より視覚的にもわかりやすく説明できる工夫がされていると感じました。研修は短期間でしたが、多くの部署を見学させていただき、カンファレンスにも参加させていただいたので、とても有意義でした。ありがとうございました。

2019年度 高知県立大学がん高度実践看護師(APN)コース

~Cancer Trajectory をたどる人のニーズに応える高度実践を創造する看護師養成~
AYA世代がん患者のケアとキュア

目的: ライフステージやがんの特性を考慮して、がんと共に生きる人とその家族の健康と生活に関わるニーズに応えられる専門性の高い実践ができる看護師の養成

履修期間: 2019年9/7(土)、8(日)、10/13(日)、14(月・祝)、11/9(土)、10(日)
2020年2/1(土)、2(日)

開催場所: 高知県立大学池キャンパス 看護学部棟3階C310 他

履修科目: 4単位60時間 「AYA世代がん看護基盤論」「AYA世代がん診断治療学」
「AYA世代がん看護実践論」「AYA世代がん看護展開論」

対象者: 専門看護師、大学院修士課程修了者、がん看護に関連する認定看護師

修了要件: コースで定める60時間のうち、各科目8割以上履修すること

受講者数: 15名 うち10名が修了

高知県立大学では、2017年度からリカレント教育として、がん高度実践看護師(APN)コースを開講している。2019年度は「AYA世代がん患者のケアとキュア」をテーマに、AYA世代がんの診断や治療に関する知識、AYA世代がん看護に関する専門的な知識と技術を学び、がんをもつAYA世代のニーズに対応することのできる専門性の高い看護実践力を修得することを目指したコースを開催した。

【終了報告】

高知県での開催であり、かつ8日間のコースであったが、中国・四国の広島県、愛媛県、香川県、徳島県からも、がん看護専門看護師、小児看護専門看護師、がん看護に関連する認定看護師、感染管理認定看護師、がんプロ学生の参加があった。受講生はAYA世代がんの診断や治療に関する知識、AYA世代がん看護に関する専門的な知識と技術の学びをもとに、年代・性別の異なるAYA世代がん患者4事例を用いた看護介入モデルの考案を行い、がんを持つAYA世代のニーズに対応することのできる専門性の高い看護実践力を修得した。また、多領域の専門・認定看護師、専門看護師を目指す学生がディスカッションをすることで、自分にはなかった視点や考え方を得、互いに刺激を受け、視野をより一層広げる機会となった。

受講生からは、「理論や概念を統合してアセスメントすることで、対象者を多面的に捉えることができることを学び、グループワークを通して理解を深めることができた」「AYA世代特有の発達課題や、抱える問題について理解することができた」「発達理論や移行理論など、成人ではあまり使わない理論について学ぶことができた」「実際の事例をグループ内で検討することで、具体的な看護ケアの立案ができたので、実践に活用できると感じた」などの声が聞かれ、今後の専門性の高い看護実践につながる、受講生のニーズに応えることのできた有意義なコースとなった。

【全体のサマリー】

「AYA世代がん看護基盤論」

有田直子先生(高知県立大学看護学部 講師)からは、AYA世代を理解する上で必要な発達理論、移行理論、家族システム論等、およびそれらのAYA世代がん看護への活用について説明され、AYA世代への理解を深め、AYA世代がん患者への看護実践をするための基盤となる知識を再確認することができた。

有田直子先生と庄司麻美先生(高知県立大学看護学部 助教)からは、AYA世代がん患者の倫理的課題や倫理的課題に取り組む看護師の役割について説明された。AYA世代がん患者は病状説明や治療・療養に関するだけでなく、治療後の生活にも及ぶ様々な意思決定を行う必要があり、そこには患者本人だけでなく家族や



主催者: 藤田 佐和 先生



有田 直子 先生

医療者を含めた価値の対立が起こり得る。そのため、倫理的意思決定モデルや倫理原則に基づき、それぞれの人の価値の持つ重要性を理解しながら、問題解決のために看護師として何をすべきかを考えていく必要性を理解することができた。

津村明美先生(静岡県立静岡がんセンター がん看護専門看護師)からは、複雑な健康問題をもつAYA世代がん患者の包括的アセスメントとケアについての説明があった。AYA世代は教育を受け社会人として働き、自らの家族を持ち親となっていくプロセスの途中にあり、がんの治療を受けながらこれらのプロセスを歩むことや、治療により晩期合併症がもたらされることもあるため、長期にわたるフォローアップが必要となることが述べられた。このような状況下にあるAYA世代がん患者への支援について、静岡県や静岡がんセンターでの実際の取り組みを交えて具体的に述べられ、AYA世代という特徴を踏まえた個別的な支援の重要性を改めて認識することができた。

【AYA世代がん診断治療学】

池田久乃先生(高知医療センター がん看護専門看護師)からは、治療期にあるAYA世代がん患者への看護実践として、妊孕性や生殖機能の問題、ライフスタイルと機能回復に対し、自施設での取り組みや研究などを踏まえた説明があった。

久川浩章先生(高知大学医学部小児思春期医学講座 准教授)からは、骨肉腫に関する診断と治療、治療の現状と課題についての説明がなされた。AYA世代では小児がんよりも発症から診断までの期間が長い傾向にあるため、病変の増大や転移を生じ患肢温存が困難になったり、予後を悪化させる危険性があることが述べられた。また、骨肉腫の治療終了後も、局所再発や遠隔転移、晩期合併症に対する長期フォローアップが必要であり、症状のアセスメントに加え心理・社会面への影響もアセスメントしていく必要があることを理解することができた。

高島大典先生(高知医療センター乳甲状腺外科 科長)からは、遺伝性腫瘍の基礎知識とがん治療による妊孕性への影響や妊孕性温存についての説明があった。がん治療により妊孕性低下のリスクがあり、薬剤の種類や量・照射線量や部位によってリスクが異なることや、妊孕性温存に関しては患者に対して情報提供が不十分で、妊孕性温存を行う施設も少ないことが述べられた。妊孕性温存療法を行う上では、がん治療そのものや費用、患者個々の状況など多くの問題があるため、まずは医療者ががん患者の妊孕性温存に関心を持ち、適切な情報提供と関連する部署との連携を図っていく重要性を再認識することができた。

砥谷和人先生(高知大学医学部血液内科学講座 講師)からは、AYA世代白血病患者の診断・治療に関する基礎となる知識と、急性リンパ性白血病においては小児型プロトコルを使用した方が治療成績が良いことや、その一方で治療関連死亡率が高いため生存率が小児よりも低いことなど、AYA世代白血病患者の治療に関する特徴についての説明がされた。AYA世代がん患者に対しては、抗がん剤治療を行うことでの妊孕性の問題や長期フォローアップの問題など、幅広い視野を持つて関わることの重要性を理解することができた。

光岡妙子先生(高知医療センター 緩和ケアセンター長)からは、AYA世代がん患者への緩和医療とチーム医療について説明がされた。AYA世代がん患者は、社会生活の岐路となるライフイベントに直面している状況での罹患であり、フォローアップも含めて長期間医療との関わりを必要とされるため、状況に応じた継続的な緩和ケアを提供していく必要性が述べられた。そして、AYA世代がん患者の抱える問題は多様で個別性に合った緩和ケアが必要となるため、各診療科や職種が互いの専門性を活かしながら、患者や家族のQOL向上に向けたケアを提供していくチーム医療が重要となることを改めて理解することができた。



庄司 麻美 先生



津村 明美 先生



池田 久乃 先生



久川 浩章 先生



高島 大典 先生



砥谷 和人 先生

前田英武先生(高知大学医学部附属病院 社会福祉士)からは、社会福祉士が行うAYA世代がん患者への支援についての説明があった。AYA世代がん患者の就労に関しては、患者・家族だけでなく、企業側も含めて治療やその影響、活用できる制度などの知識や情報が不足していたり、相談先が分からないなど、治療と仕事の両立が容易ではない現状があることが述べられた。そのため、AYA世代に限らず、がん患者への適切な就労支援を行うためには、看護師も就労支援に関する知識や情報を持つことや、患者が不当な理由で社会参加の機会を失うことがないように、自施設でできる取り組みを考える必要性を理解することができた。

「高齢がん看護実践論」

庄司麻美先生と門田麻里先生(高知県立大学看護学部 特任助教)からは、AYA世代がん患者の全人的アセスメントと看護援助として、身体的機能のアセスメントについての説明があった。これまでの講義で学んだAYA世代の身体的側面を捉えるために必要な視点について再確認を行い、その上でALLとAMLについて長期フォローアップを実践する上で晩期合併症に焦点を当てた身体的機能の評価に活用できるアセスメントシートの開発を行った。

宮脇聡子先生(四国がんセンター がん看護専門看護師)からは、AYA世代がん患者の全人的アセスメントと看護援助として、心理社会的側面のアセスメントについての説明があった。AYA世代でのがん罹患は自己実現、就学、就職、結婚、出産、育児などの人生の中でストレスの大きいイベントが多い時期であるため、個人の状況に合わせたフォローの必要性が述べられた。また、四国がんセンターで取り組まれている「チャイルドサポート」を紹介され、自身が親であるYA世代がん患者が安心して治療に臨むことができる環境を調整したり、子どもへの直接・間接的なサポートを行うなど、世代の特徴に合わせた取り組みの実践について述べられ、受講生それぞれが自施設で取り組めるAYA世代がん患者への支援を考える機会となった。

有田直子先生からは、AYA世代がん患者と家族への支援について、これまでに学んだ移行理論や家族システム理論を活用した意思決定支援をShared Decision Makingの視点から説明がされた。AYA世代がん患者は抱える発達課題が移行するにつれて意思決定のスタイルも変化するため、医療者は常に患者や家族と一緒に考え、そのプロセスを共有し、その人の価値観を尊重しながらも最善を検討していくことの重要性について述べられた。また、AYA世代がん患者の復学や就労について意思決定を軸として説明され、AYA世代がん患者の復学や就労における課題を理解し、復学・就労後も患者が遭遇する課題に対して意思決定できるよう、関連する機関と連携を図りながら継続支援することの重要性を再認識することができた。End of Lifeと在宅緩和については、AYA世代がん患者にとってEnd of Life期を在宅で過ごすかどうかや、病気の説明をどのように行うかなど意思決定をしなければならないことが多いため、意思決定支援を行う際には、患者本人にとって何が最善なのかを考えると同時に、その家族のQOLにも目を向けることの重要性を理解することができた。

「AYA世代がん看護展開論」

AYA世代がん看護展開論では、AYA世代がん患者の特徴を含む4つの事例についてグループワークを行った。これまで修得した理論や概念、AYA世代特有の課題を統合させ、事例のアセスメントを行うことで、看護問題や重要な課題を見つけ出す看護介入モデルを作成していきました。グループメンバーは専門分野の異なる専門・認定看護師、大学院生3~4名で構成し、専門性を活かした多様な視点で討議を行った。また、それぞれのグループが検討した内容を発表・共有することにより、アセ



光岡 妙子 先生



前田 英武 先生



宮脇 聡子 先生



有田 直子 先生



森本 悦子 先生



グループワークの様子

活動報告

メントや看護援助の多様性を理解することができた。さらに、これまで学んだ知識を活用して看護介入モデルの作成を行ったことにより、理論や概念の活用の仕方を再確認し、講義内容の理解を深めアセスメント力を高めるとともに、それぞれの立場で今後の実践にどう活用していくかを考える機会となった。

【受講生アンケート結果】

受講生15名のうち、14名から回答があった(回答率93.3%)。アンケートの結果、【コース全体を通してのあなたの満足度はいかがですか】という問いに対し、「大変満足した」は、93%、「まあまあ満足した」は、7%であった。【コース内容が専門性の高い看護実践力の修得につながりましたか】に対しては、「十分つながった」が71%、「ある程度つながった」が29%、【今回のコースの内容は今後のがん患者さんへの専門性の高い看護実践に活用できますか】は、「大変活用できる」が93%、「まあまあ活用できる」が7%であることが分かり、受講者のニーズに応えることのできたコースであったと考えられた。

また、専門性の高い看護実践力の修得につながった具体的な内容については、「理論や概念を統合していくことで、対象者を多面的に捉えることができるということ」「AYA世代の特徴とAYA世代を捉えるための視点」「AYA世代の発達課題に応じた意思決定支援」「事例をグループワークで検討し、看護介入モデルを考案したこと」で今までの学びが深められた」などが挙げられた。

さらに、今後のAYA世代がん患者さんへの専門性の高い看護実践に活用できるとする具体的な内容については、「AYA世代は様々な問題を同時に抱えているので、理論や概念を統合させることにより、どこに介入すればよいかが見えてくるとのこと」「家族システム理論を活用したAYA世代がん患者と家族の捉え方」「発達段階における課題の特徴」「学んだ理論や概念とその活用の仕方。特に発達理論や移行理論についてはこれまであまり使うことがなかったので活用できると思う」「長期フォローアップという視点が必要なことや、疾患や治療に合わせて何を見ていけばよいかということ」「AYA世代がん患者に活用できる社会資源や連携していける機関」「グループワークで他施設・多領域の専門看護師や認定看護師の考え方を学べたこと」「受講生同士のディスカッションが有意義で、学びを深めたり今後のつながりにもなった」などが挙げられた。

これらの結果から、受講生はコースで学んだ知識や内容を今後のAYA世代がん看護実践に活かすとともに、今後さらなる専門性の高い看護実践を行っていくための自己の課題も見出すことができおり、受講生にとって有意義なコースとなったと評価できる。

今年度以降もがん高度実践看護師(APN)コースはテーマや内容を洗練して開講する予定です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



グループワークの様子



発表の様子



発表の様子



講義の様子



修了式

香川県病院薬剤師会12月度西部地区定例研修会

日時:令和元年12月6日(金) 19:00~20:50

場所:普通寺グランドホテル2階 鶴の間

参加者:57名

情報提供:日本化薬株式会社

特別講演:「乳癌薬物療法について」

香川大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌外科 准教授 紺谷 桂一 先生

第5回 がん治療スキルアップセミナー

山口 第22回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会

日時:令和元年12月26日(木) 17:30~18:30

場所:山口大学医学部附属病院 新中央診療棟1階 多目的室1

参加者:40名

「大学病院から在宅療養へ多職種協働で治療を完遂できた統合失調症を伴う咽頭がん事例」

山口大学医学部附属病院 精神科病棟看護師 吉松 宏剛 先生

訪問看護ステーション私の家 吉弘 純 先生

山口大学医学部附属病院 患者支援センター 精神科認定看護師 田中 志和 先生



岡山 第34回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:令和2年1月6日(月) 16:30~18:00

場所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム

参加者:6名

「放射線治療品質管理基礎技術20(強度変調放射線治療)」

岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

岡山 第35回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:令和2年1月9日(木) 16:30~18:00

場所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム

参加者:6名

「放射線治療品質管理基礎技術21(定位照射)」

岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

岡山 第36回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:令和2年1月20日(月) 16:30~18:00
 場所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム
 参加者:6名
 「放射線治療品質管理基礎技術22(高線量率小線源治療)」
 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

広島 広島県がん診療連携拠点病院薬剤師研修会

日時:令和2年1月22日(水) 19:00~20:30
 場所:広島大学霞キャンパス 廣仁会館2階 大会議室
 参加者:41名
 一般講演:「がんゲノム医療における薬剤師の関わり」
 岡山大学病院 薬剤部 武田 達明 先生
 特別講演:「がんゲノム医療の現状と今後の展開」
 広島大学病院 遺伝子診療部 特任教授 檜井 孝夫 先生

岡山 第37回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:令和2年1月23日(木) 16:30~18:00
 場所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム
 参加者:6名
 「放射線治療品質管理基礎技術23(前立腺永久挿入療法)」
 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

岡山 第38回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:令和2年1月27日(月) 18:00~19:30
 場所:津山中央病院がん陽子線治療センター 治療計画室
 参加者:8名
 「陽子線治療における3D Dosimeterの応用について」
 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

広島 広島大学病院 在宅緩和ケア事業研修会

テーマ:病院と地域のつながりを深めよう
 日時:令和2年2月1日(土) 15:00~17:00
 場所:広島大学病院 臨床管理棟3階 大会議室
 参加者:61名
 事例検討会(グループディスカッション)
 「病状に関する否認が続いたが、医療者と家族の連携で在宅での看取りを実現した事例-ワンチームでの取り組み-」
 パネリスト:明石内科クリニック 医師 酒井 亮
 佐伯地区医師会訪問看護ステーション 看護師 岡 恵子
 元地域包括支援センターはつかいち ケアマネージャー 吉野 富美子
 広島大学病院 医師・看護師・MSW 他

岡山 第39回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:令和2年2月3日(月) 16:30~18:00
 場所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム
 参加者:6名
 「放射線治療品質管理基礎技術24(腔内照射)」
 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

高知 第16回 がんプロ国際セミナー

テーマ:地域医療について
 日時:令和2年2月13日(木) 18:30~
 場所:高知大学医学部 低侵襲手術教育・トレーニングセンター
 参加者:21名
 台湾大学学生と高知大学学生がお互いの大学と実習についてプレゼンテーションをした後、台湾と高知の地域医療・在宅医療について英語でディスカッションを行った。

**岡山** 第40回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:令和2年2月13日(木) 16:30~18:00
 場所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム
 参加者:6名
 「放射線治療品質管理基礎技術25(画像誘導放射線治療)」
 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

第7回 岡山 患者－医師間のコミュニケーションの質の向上を目的とした コミュニケーション技術研修会

日 時: 令和2年2月15日(土) 10:00～18:00

令和2年2月16日(日) 8:00～14:30

場 所: 岡山大学医歯薬融合型教育研究棟3階

参加者: 3名

難治がん、再発、抗がん剤の中止など悪い知らせを患者に知らせるロールプレイ



インテンスブ生涯教育コース

川崎 川崎医科大学附属病院がんセンター 第26回 Cancer Seminar 合同講演会

テーマ: 乳がん治療の最近の進歩

日 時: 令和2年2月15日(土) 13:30～15:30

場 所: 川崎医科大学 校舎棟7階 M-702講義室

参加者: 65名

講演1: 「基調講演: 乳がんのバイオロジーと治療選択」

川崎医科大学 乳腺甲状腺外科学 主任教授 紅林 淳一

講演2: 「乳がんの化学療法の現状」

川崎医科大学 乳腺甲状腺外科学 講師 山本 裕

講演3: 「乳がんの分子標的治療の現状(内分泌療法を含む)」

川崎医科大学 乳腺甲状腺外科学 講師 野村 長久

講演4: 「特別講演: BRCA 1/2変異によるDNA修復不全を標的とした治療戦略」

聖マリアンナ医科大学大学院医学研究科 応用分子腫瘍学 教授 太田 智彦



香川 第23回 緩和医療に関する集中セミナー in 香川

日 時: 令和2年2月15日(土) 9:00～13:00

場 所: 高松国際ホテル 讃岐の間(本館2階)

参加者: 106名

「最新! 緩和領域のお薬について」

香川大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤師 水川 奈子

「がん疼痛治療におけるオピオイド鎮痛薬」

静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科 部長 佐藤 哲観

「これであなたもヒカチュー(皮下注)マスター☆」

香川大学医学部附属病院 がんセンター 病院助教 村上 あきつ

「神経ブロック療法でがんの痛みを治療する」

松山ベテル病院 ホスピス 医長 坪田 信三



高知 第8回 インテンスブコース(在宅がん医療・緩和医療) 在宅がん医療講演会

テーマ: アドバンス・ケア・プランニング(人生会議)の普及啓発

日 時: 令和2年2月16日(日) 14:00～16:00

場 所: ちより街テラス3階 ちよテラホール

参加者: 39名

「ACP(人生会議)の普及啓発～徳島県での取り組み～」

JA徳島厚生連 阿南医療センター 緩和ケア内科 部長

病院長補佐(教育担当) 寺嶋 吉保 先生



岡山 第41回 岡山大学医学物理コース(インテンスブ) 地域連携セミナー

日 時: 令和2年2月17日(月) 16:30～18:00

場 所: 岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム

参加者: 6名

「放射線治療品質管理基礎技術26(陽子線治療)」

岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

高知 就労支援に関する講演会

日 時: 令和2年2月22日(土) 14:00～16:00

場 所: 高知共済会館 COMMUNITY SQUARE3階 大ホール「桜」

参加者: 11名

「今、医療機関に求められている生活支援(就労・就学)について」

国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院

サポータティブケアセンターがん相談支援センター 副センター長 坂本 はと恵 先生



山口 第6回 がん治療スキルアップセミナー 第23回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会

日 時: 令和2年2月26日(水) 17:00～18:00

場 所: 山口大学医学部附属病院 新中央診療棟1階 多目的室1

参加者: 25名

「最期まで治療を諦めなかったAYA世代の終末期絨毛がん患者と家族の関わりを通して」

山口大学医学部附属病院 泌尿器科 山本 義明 先生

山口大学医学部附属病院 看護部 大上 美美代 先生



岡山 第42回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日 時:令和2年2月28日(金) 18:00~19:30
 場 所:津山中央病院がん陽子線治療センター 治療計画室
 参加者:7名
 「陽子線治療におけるin-vivo dosimetryについて」
 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

広島 広島大学病院 がん医療従事者研修会

日 時:令和2年3月6日(金) 18:30~
 場 所:広島大学病院 臨床管理棟3階 3F1会議室
 参加者:17名
 「がん医療における第3の要素:患者力とは?」
 広島県立医科大学 白河総合診療アカデミー 准教授
 白河厚生総合病院 総合診療科 部長 東 光久 先生

徳島文理 徳島文理大学中四がんプロコンソーシアム講演会

日 時:令和2年3月16日(月) 19:00~20:30
 場 所:サンポートホール高松5階 54会議室
 参加者:3名
 「がん患者さんの支持療法に対する取り組み~医療シミュレーション」
 日本医科大学多摩永山病院 薬剤部長/東京薬科大学客員教授/がん指導薬剤師・緩和薬物療法認定薬剤師 高瀬 久光 先生

岡山 第43回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日 時:令和2年3月26日(金) 18:00~19:30
 場 所:津山中央病院がん陽子線治療センター 治療計画室
 参加者:8名
 「Radiochromic Filmの陽子線治療応用について」
 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

広島 広島大学病院 がん医療従事者研修会

日 時:令和2年7月31日(金) 18:30~20:00
 場 所:広島大学病院 臨床管理棟3階 大会議室
 参加者:37名
 「がん医療におけるコミュニケーション~アンガーマネジメントと医療メデイエーションについて~」
 広島大学医学部附属医学教育センター センター長 蓮沼 直子 先生

徳島 がん看護専門看護師コース 2020がん看護学合同セミナーI

日 時:令和2年8月1日(土) 9:00~17:00
 場 所:Zoom
 参加者:44名
 がん患者におけるリンパ浮腫に対する症状マネージメントの実際
 京都大学大学院医学系研究科・がん看護専門看護師 井沢 知子
 リンパ浮腫の病態を生理学的視野から理解する
 ・リンパ浮腫の病態を解剖学的視野から理解する
 ・リンパ浮腫の鑑別診断
 リンパ浮腫指導管理料
 ・複合的理学療法(スキンケア、ドレナージ、圧迫療法、運動療法)
 徳島大学大学院保健科学教育部/リムズクリニック・看護師 高西 裕子
 モビダムの構造や仕様、患者指導時の要点
 ソルブ株式会社メーカー事業部・リンパ浮腫チーム 鴨須賀 紀弘
 リンパ浮腫に関する現状と世界の動向について理解する
 徳島大学大学院保健科学教育部/リムズクリニック・看護師 高西 裕子

広島 第16回 広島臨床遺伝セミナー

テーマ:次世代のゲノム医学をベンチからベッドサイド、そして社会へ
 日 時:令和2年8月8日(土) 14:00~17:00
 場 所:Web形式
 参加者:170名
 第1部:「着床前診断の遺伝カウンセリング」
 藤田医科大学総合医科学研究所 分子遺伝学研究分門 教授 倉橋 浩樹 先生
 第2部:「がんゲノム医療時代にあらためて『遺伝性腫瘍』を考える」
 札幌医科大学医学部 遺伝医学 教授 櫻井 晃洋 先生
 第3部:「当事者会活動を通じた地域連携の重要性と今後の課題」
 特定非営利活動法人クラヴィスアルクス 理事長 太宰 牧子 様

新型コロナウイルスの影響により、
 例年よりもセミナーの実施数が減っておりますが
 感染防止対策を講じるなどして本年度も随時、
 開催を行って参ります。

